**事業報告**

**社会福祉法人　筑前早良福祉会**

　令和６年度は介護報酬改定の年であり、法人としても課題が多く、対応に追われた年となりました。「地域包括ケアシステムの深化・推進」「自立支援・重度化防止に向けた対応」「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」「制度の安定性・持続可能性の確保」を基本的な視点として実施されました。感染症や災害への対応力の向上や看取りへの対応強化、医療と介護の連携の推進、生産性向上推進等、多くの課題について一つ一つの取り組みが必要でした。そのような課題の多い状況の中、重点目標にも掲げた通り、BCP業務継続計画の確立、人材育成・人材確保、看取り介護を中心とした取り組みをおこなってきました。

特に、看取り介護の導入と外国人の雇用については、法人にとって大きな取り組みとなりました。

また、施設の老朽化に伴い計画しておりました全館外装改修工事、新館給水メイン配管改修工事が無事に完了致しました。

**令和６年度重点目標**

1. 感染症対策

令和６年8月にコロナウイルス感染症クラスターが発生し、入居者67名、職員27名が罹患しました。BCP（業務継続計画）の通り、業務を進めていきました。、次々に入居者様と職員が罹患してしまい、入居やショートステイの受け入れを一時的に止めなければならない状況になりました。一日も早く終息するよう、日々の健康管理と予防に力をいれ、約１カ月半で全てが終息となりました。

今後、いつどのような新興感染症が流行するかわかりません。介護サービスを中断させない、中断した場合は速やかに復旧させるということを目標に掲げ、職員全員で感染症予防につとめたいと思います。

1. 人材育成・人材確保

社内研修については、毎月１回３階ホールで研修をおこないました。個々の知識や介護力を高めることを目的とし、実践やグループディスカッションをおこないました。皆で顔を合わせて学習することにより、一人一人の意識の向上に繋がり、介護現場で生かすことができました。特に、外国人雇用の受け入れについての研修や、看取り介護の研修は職員にとって重要な研修となりました。

外国人人材確保については、福岡市の事業に参加することができ、申請を進め外国人雇用登録機関を紹介していただきました。４月に３名（特定技能１号）の中国人を採用しました。彼らは、約１年半の間、日本語学校で日本語を学び、その間、飲食店や老人施設でアルバイトの経験がありました。日本語は未熟な状態でありましたが、職員が十分に関わることで現在は夜勤の勤務も出来るようになりました。さらに、１０月に１名、１２月に１名の中国人を採用しました。

令和６年度の法人全体の新規採用者は１０名。退職者は１１名でした。ハローワークや社会福祉協議会が主催する就職フェアに参加し、３名が採用に繋がりました。また、１０名中２名が職員からの紹介でした。肝心な介護職員は新規採用が７名、退職者が９名となり、欠員に対しては派遣職員で補充する形となりました。

1. 生活の場としての安心の提供（看取り介護）

令和６年度より、看取り介護を始めました。住み慣れた環境で、顔なじみの職員が関わり、最期まで安心して過ごすことができるよう取り組んできました。嘱託医が診察し、ご家族に状態説明をおこない、愛信園での看取りを希望されれば開始となります。定期的に多職種が集まり、カンファレンスをおこない、ご本人に合ったケアの充実を図ることができました。この一年間で11名の方を看取らせていただきました。職員はお預かりした命を大切に思い、最期まで介護させていただきました。全てのご家族が大変喜んでくださり、施設での看取り介護の実現が、大変貴重で重要なものだと実感しました。

今後もご家族と十分に話し合った上で、ご本人の尊厳に配慮しながら、安らかな終末がここ愛信園で迎えられるよう、支援をおこなっていきたいと思います。

1. 目標数値

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 事業 | 目標項目 | 令和６年度目標値 | 令和６年度実績 |
| 介護老人福祉施設 | 稼動率（入居率） | 97％ | 94.7% |
| 短期入所生活介護 | 日々の利用者 | 8人/日 | 6.2人 |
| 通所介護 | 日々の利用者 | 11人/日 | 8.6人 |
| 居宅支援 | 管理人数 | 35人/月 | 40人 |

・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム　愛信園）

　上半期の稼働率は93.2%と低迷しました。入院も空床も多く、会議を重ね稼働率について話し合いをおこないました。下半期は96.3%の目標に近い数字を出すことができ、令和６年度の実績は94.7%という結果になりました。（前年比＋0.8％。）

年間の退所者が34名。その内、お看取りが11名でした。退所された方は、高齢者に多い肺炎や心臓疾患が主な原因でした。

入居待機者については、医療機関や居宅支援事業所との積極的な関わり、営業活動により、３月末時点で約20名の待機者を確保しています。

・短期入所生活介護

　短期入所事業におきましては、令和6年度１日平均8名を目標にしていましたが、１日の平均は6.2名でした。目標の1日平均8人には達しませんでした。待機者にも長期のショートステイから入居をご案内しますが、入院治療中の方や、もう少し在宅で過ごしたい方が多く、受け入れに繋がらないこともありました。

また、コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症が流行すると外部からの受け入れが制限されるため、クラスターの際は一時的にご利用を控えていただく期間もありました。

・通所介護

通所介護事業は、令和6年度延利用者3,156人、年間平均は前年8.3人から今年度は平均8.6人で推移しました。目標の１日平均１１名には達しませんでした。現在利用中の利用者様が、熱が出たり、転倒してしまうことがあり、在宅での生活が困難となるケースが多く、その場合は、入院やショートステイを利用することになるため、デイサービスの利用が中止となってしまいました。そのような中でも、独居の利用者様とご家族が仕事で帰宅が遅くなる方の夕食提供は好評を得ており、利用時間を延長される方が増えました。

定期的に居宅支援事業所や包括支援センターへ営業活動を行うことで、利用者様を紹介していただきました。また、現在利用中のお客さまの口コミにより、ご友人を紹介していただけることもありました。

・居宅介護支援

　居宅支援事業は年間平均40件。目標の35件を大きく上回る結果となりました。包括支援センターや主治医等とも協力し、在宅生活が快適に継続できるよう支援してきました。困難事例にも対応し、ご家族の信頼も得ることができています。愛信園のデイサービスやショートステイの利用にも繋げることができました。

1. 地域との連携、地域福祉の増進への寄与

日頃から地域の方々との交流をおこなっており、愛信園主催のグランドゴルフ大会は、地域の方が５０名参加されました。また、地域の方を対象に、吉武公民館で認知症講座を開催し、困ったことがあれば愛信園にいつでも相談していただけるようにお話させてただく機会を設けることができました。

毎年開催される金武小学校での春わすれのイベントでは、利用者様が作った作品（貼り絵や人形）を提示し、地域の方々に紹介させていただきました。

今年度、幸いにも大きな災害はありませんでした。常日頃から防災意識を高め、BCP（業務継続計画）のもと、地域と防災について協力体制を構築していきたいと思います。

1. 設備、備品関係

・新館外装改修

（外壁改修・防水改修・講堂屋根改修・屋上庭園改修）

・本館外装改修

（外壁改修・防水改修）

・新館給水メイン配管改修

・１階特殊浴槽交換（機械浴）

全ての計画が無事に完了いたしました。

**令和6年度　事業報告**

特別養護老人ホーム 愛信園

（生活相談員・介護支援専門員）

**【生活相談員】【介護支援専門員】**

コロナウイルス感染症が5類になり、面会・見学・地域交流も少しずつ再開でき、以前のような活気を取り戻し始めました。施設の中にもたくさんの方がお越し頂くことで、利用者様の安心の声や、施設職員の接遇・環境整備等も意識的に改善が図れているように感じます。

生活相談員としては認知症予防教室、西南学院大学からのソーシャルワーク実習・現場体験等を受け入れることで、学生の進路選択の参考になる場面作りや。自身の生活相談員としての在り方を見直すことが定期的にできています。

今年度、大きな変化として看取りを行うこととなりました。多職種が連携しながら、ご利用者様・ご家族様が前向きな気持ちで人生の最期の過ごし方を考えるサポートをさせていただきました。施設側に求められる環境面や対応もありますが、相談援助職としての言葉選びや葬儀の流れ、スタッフのケアの統一等、様々なことを学びチームケアの大切さを考える1年となりました。施設での看取りを行うことでご家族様からは最期は親切に見て頂いた愛信園で過ごせてよかったとお声かけいただく場面が多くなりました。終末期になると看取りを行う前までは、医療機関を紹介させていただいていましたが、受入が難しいと断られることも多く、救急搬送を繰り返すことも多々あり、施設で看取りを行ってほしいというお声かけを他医療機関からも多くご意見をいただいていましたが改善することができました。看取りについては課題もありますが、スタッフで問題点を共有して、より良いサービスに繋がるよう検討を続けていきたいと思います。

今年度、途中から生活相談員の増員がありました。以降、契約・担当者会議・送迎等の調整がしやすくなったことや、急な来客や電話対応等でお待たせする時間も減らす事ができました。令和6年度の特別養護老人ホームの年間稼働率は94.7％と目標の97%には届きませんでした。感染症の影響もあり上半期稼働率93.2％でしたが、下半期は生活相談員増員、看取り対応に職員が慣れてきたこともあり、効果が見られ稼働率96.3%となりました。令和7年度も相談援助職が協力して稼働率を上げられるように努めます。

1. 施設内での事故を減少させる。

令和4年度164件、令和5年度133件、令和6年度は124月件となっています。避けられる事故である誤薬については令和6年度3件の報告となっています。当初は外国人スタッフの内服介助が円滑に進められるか心配もされていましたが、事故なく経過しています。転倒・転落が58件と事故の約47％を占めます。徘徊される方や夜間不眠の方も多く、認知症の進行や精神疾患の疑いから暴力や暴言が出てしまう利用者様もいらっしゃいます。可能な限り内服には頼らずケアにより、生活が安定するように努めていますが、他のご利用者様への影響や内服調整による副作用も十分考え、主治医の先生や、ここからクリニック様に相談しながら対応を継続していきたいと思います。

困難事例があればリスクマネジメント委員会を臨時で開催し、対策を練っていきます。

2.　ケアプランの充実

　　　利用者様、ご家族様のニーズを反映した、施設サービス計画書を作成する為に日々コミュニケーションを図り、ニーズの把握に努めました。特に看取りケアを行う利用者様へはご家族様の意向の確認を慎重に行っており、意向の変化にも柔軟に対応できるように努めています。今年度は11名の方を愛信園でお看取りさせて頂きました。お看取り後、ご家族様から「愛信園で良かった。」と感謝の言葉を頂くことも多くありました。今後、より良いサービスの提供が行えるよう努めて参ります。

介護保険被保険者証の更新に伴う認定調査の際には全て立ち合い、現在の状態を細かく伝えることにより9割の方にサービス提供に見合った介護度を出すことが出来ています。

3.　苦情対応

　　　令和6年度には職員の接遇を見直して欲しいとのご指摘を3件お聞きしています。利用者様ご本人やご家族様より入所者様に対する不適切な声掛けや挨拶をしてくれない、対応が雑等の内容でした。職員の普段の声掛けや対応が、ご本人様やご家族様にとって不快や不安に感じられることもある為、普段の声掛けや対応等を見直すよう全職員へ指導を行いました。また、声掛けや対応等で気になる点があれば職員同士で声をかけ合い、ご利用者様が安心して生活できる環境作りを継続したいと思います。

4.　地域交流

　　　新型コロナウイルスが5類に落ち着き、福岡市老人福祉施設協議会でも活動を元に戻していくことが目標とされていました。利用者様の運動会など再開されましたが、参加施設は一桁台と以前のような活気は完全に取り戻せていません。また施設同士の新年会は冬場で感染症流行が予想されたため、欠席いたしまいた。愛信園としては、秋祭り、グラウンドゴルフ大会、認知症予防教室、学生の実習受入、ボランティア再開もあり、風通しの良い体制が戻ってきました。地域リハビリテーションなどが再開保留中ではありますが、来年度以降も少しずつ活動を再開、新規計画の立案ができればと思います。令和7年度は35周年記念式典も計画があるため、感染症に注意し、企画を進めて参ります。

5.　身体拘束廃止、虐待防止について

　　　令和6年度より高齢者虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会を設立しました。新規利用者の受入検討をする場合に、ヘッドギアの着用を家族が希望されている場合は身体拘束に該当するか等話し合いをする場面もありました。

ご家族からナースコールを手の届かない位置に置いていないかと心配される声がありました。職員が気付かないうちに不適切なケアを行っていないか等、身体拘束委員から文書と合わせて介護主任から全職員へ再確認のお声かけいただくように配慮しました。身体拘束や虐待といった大きな問題となる前に、行っているケアが不適切でないか気になることがあれば職員がかけ合い、検討が必要な場合は委員会を活用しながら利用者様が安心して生活できる環境作りを継続したいと思います。

6　待機者の確保

　　待機者数は20名～30名程度を維持しています。近隣施設で共通しているのが、即入居したいといった方の相談が増えています。入院中の方が退院期限に合わせて複数施設申込されており、空いている施設に入居されるといった状況が続いています。そのため、待機中の方に順番が回ってきた旨をお伝えしても、他の施設に入居が決まったのでキャンセルしますといった声も多いです。医療機関からの紹介も変わらず多く受付しています。要介護1～2の方で区分変更中の方の受入も積極的に行っており、要介護3以上の認定が出れば入居に切り替えていくケース等、柔軟な対応を心がけています。今年度は身寄りのない方の受入ができないか医療機関・他特別養護老人ホーム等と情報交換や施設内でもどうにか受入ができないか等、検討を行いました。看取りを行うことになり、やはりご家族や身元保証人の存在は必要と判断していますが、今後も課題に応じて情報収集に努め、組織変化が必要な場合はご検討させていただきたいと考えています。困難事例の相談も積極的に受付し、引き続き居宅介護支援事業所や医療機関と連携を計っていきたいと思います。往診医の先生の変更もあり、先生の担当する患者様の相談対応も引き受けていきたいと考えています。

**【 短期入所生活介護 】**

今年度は看取りの導入もあり、居室調整で苦慮しました。短期入所生活介護利用者様に個室を使っていただくことを基本としていますが、看取り対応の方に個室を使っていただくこともあり、急遽2人部屋や4人部屋を使用していただく場面もありました。ご利用者様やご家族様によっては個室ではないと嫌だと敬遠される方もいらっしゃり、配慮を要する場面が多々ありました。個室での受入予定が4人部屋に急遽変わることで、男女の部屋調整が急ぎで必要となる場面が続きました。居室によってはセンサー類の相性等で、ベッドごと入れ替えが必要であるため、大がかりな作業を要しました。年度末には居室体制の打ち合わせをしており、令和7年度は改めて評価をしていきたいと思います。

1. 日課の充実について

ご利用中の生活が充実するよう、生活相談員が受入前のアセスメントで本人様の生活歴や趣味等を確認しています。しかし、医療機関では緊急性のある方がほとんどでソーシャルワーカーは利用者様の興味や趣味を把握できていないことがほとんどです。その分、在宅生活を支えてきたケアマネジャーからは手厚い情報収集は可能ですが、入院中は担当が外れていることもあり情報収集が難しくアセスメントが不十分になりがちです。受入確定後にご家族様に確認も行いますが、長年別居されていて関係性が希薄な場合もあり、情報が少ないことも課題です。在宅生活の際の様子や生活歴等をご家族様や本人様に聞き、愛信園での生活が充実するよう情報収集に努めていきます。

2.　 利用者増員について

電話・FAX・メーリングリスト等を活用して空床状況をお伝えしています。距離や公共交通手段を検討され、ご遠慮されることもありますが、こちらからも積極的に働きかけていきたいと思います。また当法人の通所介護をご利用中の方の短期入所生活介護のご希望があれば、早期の受入ができるように生活相談員同士で情報交換を行っています。近年は定期利用よりも、入所目的でのロングショートステイや、今後のことを考える時間が欲しい等の理由で数カ月間、利用させてほしいと希望される方が多いです。入院空床も活用しながら一定期間の条件付けも行いながら新規の受入を広げていきたいと考えています。生活相談員の増員後から、情報整理が円滑に行えており、相談受付から受入検討までが早くなりました。引き続き迅速な対応を心がけ、各事業所からの信頼を得られるように努めていきます。

令和6年度　事業報告

介護棟（楓・椿・桜）

1. 介護従事者としての意識向上と知識の蓄積に努め、サービスの質の向上を目指します。

法定研修に基づき、施設内研修を実施し介護・医療の知識習得に努めました。感染症予防の為、研修会の実施ができない場合にはレポート研修を行いました。また、各職員のスキルアップを図るため外部研修への参加も積極的に進めてきました。

担当入居者様への関わりを積極的にもち、入居者様のケアに対してカンファレンスを行い、適宜見直しを行いました。本人様の残存機能を維持できるように、残された身体機能を生活の中に取り入れ自立支援に繋げています。

感染症予防を意識し、風邪症状がある職員、コロナウイルス、インフルエンザ等に同居家族が感染した職員が発生した際には、その都度感染症委員会を開催し必要な自宅待機期間をもうける事で感染症の蔓延予防に努めました。

令和6年度中にコロナウイルス（COVID-19）の感染もありましたが、これまでの施設内感染、クラスターを経験し学んできた事を活かし個々の職員が迅速に対応し行動する事が出来ていました。

ご家族とのコミュニケーションについては、生活状況や心身状態について近況報告を行いました。ご家族のご意見に対しては職員全体で情報の共有を行い早い対応を行う事が出来ていました。

２、　入居者様に楽しみを感じて頂けるような生活が提供できるよう努めます。

　　入居者様が季節を感じて生活して頂けるよう施設内の飾り付けなどに配慮してきました。

レクリエーションについて、委員会をもとに月間予定表を作成し、個別ニーズにも反映できるように努めています。また、行事では毎月企画し、スイカ割り、敬老会、バーベキュー、おやつビュッフェ、餅つき大会、豆まき、ボランティア慰問など年間行事計画に沿って実施する事が出来ました。秋祭りは、コロナ以降の開催となり、残念ながら悪天候の為３階ホールでの開催になりましたが大勢のお客様にお越し頂き大変好評を得ることが出来ました。

1. 安全に日常生活を送って頂けるようリスクマネジメントを行います。

機能訓練士と連携し、入居者様の現状のＡＤＬをもとに運動・身体機能の維持・向上を目指し、日常的な生活リハビリを行ってきました。

事故・ヒヤリハット報告書や連絡帳の活用、並びに申し送りや業務内で改善策の周知徹底を図り、事故予防に努めてきました。しかし、転倒事故により骨折をされ入院に繋がってしまう事もありました。同様の事故を繰り返さないよう見守り体制の見直しを行うことやセンサー機器を有効に活用することで事故予防に努めていきます。

４、 介護棟(椿・楓・桜)が一体となり、入居者様・職員にとってより良い環境を目指す。

各棟、主任、リーダーが中心となりケアの統一や業務整備に取り組みました。介護棟で欠勤職員発生時は協力的に応援体制をとり欠勤者のカバーをしながら同時に他棟の業務把握も行うことが出来ています。

5、　自己啓発・自己研鑽を行い、福祉専門職としての資質向上を目指します。

毎月実施している施設内研修や施設外研修等への参加をはじめ各職員が自己啓発・自己研鑽を行うように様々な研修への参加をすすめてきました。また、資格の取得など職員一人一人が目標に向かって取り組み、福祉専門職としての資質向上を目指し資格を取得する事も出来ています。

６、　入居稼働率97％を目指します。

特養入居稼働率94.7％（楓棟95.3％　椿棟93.2％　桜棟95.9％）で目標稼働率の97％は達成できませんでした。達成できなかった要因としては、上半期（7月）に発生したコロナウイルス（COVID-19）のクラスター感染が稼働率の低下に大きく影響しました。下半期は、コロナウイルスやインフルエンザのクラスター感染を予防する事ができたことや、退所者が出た後直ぐに入居者の受け入れに繋げることが増えた事で、前年度に比べ稼働率を向上する事が出来ました。

入居者様の入院に至った主な原因ついては、基礎疾患の憎悪、心不全、肺炎でした。また、転倒や介護中の事故による骨折で入院が発生したことは反省点として今後の改善に繋げていきます。令和6年度から愛信園での看取り介護を実施し11名の方を愛信園でお看取りさせて頂きました。今までであれば病院や療養型施設に移られていた状態の方を最後までお看取りさせていただく事で稼働率の向上にも繋がっています。

感染症予防、事故防止に十分気を付け目標稼働率に達成できるよう努めて参ります。

**令和６年度　事業報告**

**医務室・リハビリ**

**【予防看護及び入院者の減少】**

嘱託医のまつおクリニック松尾勝一医師、きむらしろうクリニックの野々熊真也医師のもと、健康診断結果異常所見のあった利用者様や一時的な体調不良のあった方に対し、まず施設内で出来る検査・治療を優先的に行い、入院者の減少を図れるよう努めて参りました。今年度も施設内において食事量が低下された方や有熱の利用者様には輸液や抗生剤点滴治療を多く実施致しました。

夜間看護師のオンコール体制では、急な状態悪化により受診の必要性がある利用者様を深夜・早朝に緊急搬送を行い、入院後の状態や経過について病院やご家族様より情報を提供して頂き、退院に向けての調整を行うと同時に退院後も安心して生活出来るよう努めました。

またこざわ眼科、ここからクリニック(精神科)、のぞみ歯科の往診を定期的に受け、内科的疾病以外にも診療相談を適宜行い、必要時は紹介を受け専門医療機関へ受診し検査および治療を行いました。

今年度より初めての取り組みである看取りケアを行い、外部研修参加や嘱託医の先生に指導を受け、施設内の多職種と連携し対象の看取り利用者様、そのご家族様の意思に添い、苦痛と不安を最大限に取り除き１１名の方にこの住み慣れた施設で最期まで暮らして頂きました。

今後も嘱託医をはじめとして多職種との綿密な連携を図り、入居者様の健康の維持と異常の早期発見・治療を目指し、全ての利用者様が安心して暮らせるよう支援を続けて参ります。

**【感染症対策】**

新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザやノロウイルスなど重症化が懸念される感染症は、今年度も施設内においてクラスター発生を防止することが出来ました。流行時期より前にインフルエンザワクチン接種希望対象の利用者様と職員はワクチン接種を受けています。今年度も感染者が判明した時点で早急に隔離対応し、医師の指示により抗原検査を行うなど感染症委員を中心に感染対策を行いました。

またご家族の面会においても一時的に期間制限を設けるなど感染症を施設内に持ち込まないことを第一に考え、職員の体調不良時の就業可否についても感染症委員会で検討しました。

年間を通して感染対策の基本であるマスク着用、手洗い、消毒、換気を励行しています。上記の感染症に高齢者が罹患することで生命の危険に陥るため、今後も標準予防策の徹底と感染が判明した場合は早急に感染対策を講じ、感染が拡大しないように努め感染した利用者様の体調の観察と健康回復に向けて努めて参ります。

**【機能訓練】**

入居者様1人1人に合わせた訓練計画の作成を、他部署と共同し行い日常生活動作の改善や移動方法の検討を行いました。退院後によるADLの変化や、一時的な車椅子の使用により身体機能に変化がみられるか、適宜機能評価を行い介護現場へ報告し必要な場合は歩行器具などの変更を行いました。

　機能訓練に対して拒否をされる方も少なくはなく、積極的なコミュニケーションや時間帯による活動量の変化など情報を集め実際に拒否された方の機能訓練実施に繋がりました。

　次年度も、他部署との連記を図り1人1人に合わせた訓練計画の作成や、転倒予防・身体機能の維持を中心に行い、入居者様が楽しいと思いながら積極的に訓練に取り組めるサービスを提供していきたい。

令和6年度事業報告

デイサービス

　【計画目標】

1 登録利用者35名、日々の利用者数13名として設定

令和6年度（3月現在）の登録者は29名、平均利用者数は8.6名で前年比では登録者は2名増加、平均利用者数は0.4人増加しました。介護報酬は前年度と比べ＋788000円の増収でしたが、目標である一日１３名の利用には達することができませんでした。在宅で熱発や転倒等があると入院になり、しばらく利用を中止せざるを得ませんでした。また、ご家族の希望もありショートステイの利用が増え、デイサービスの利用が中止になることもありました。

そのため、新規利用者の獲得の為に何ができるかを職員一同で考え、チラシを作り配りました。また居宅や地域包括支援センターへの営業活動も行い、利用者様からのご紹介もあり、問い合わせや新規の方も増えまた、夕食までの利用を希望される方が増えました。今後、感染症や施設入所やご逝去による稼働率の低下も考え、更に新規の居宅介護支援事業所等への営業活動も積極的に行い、利用者数の増加を目指します。

2　顧客満足度の充実

機能訓練では、日常生活に必要な機能を維持・向上、低下防止を目的とした訓練を取り入れています。午前中は手足を動かす運動や遊びの要素を取り入れた集団体操、午後からはYouTubeを使用した運動やステップ運動を実施しています。

また、個別に、階段昇降やエルゴメーター、園外や園内の歩行訓練も行って利用者のモチベーション維持に努めています。

レクリエーション、季節行事では、身体を動かすことで、運動不足解消、脳を刺激することで、介護予防や気分転換にもなる為、歩行訓練を目的とした季節の花見物や金銭管理を目的とした買い物（道の駅やダイソー等）なども行っています。また、定期的にZoomを活用したオンラインレクリエーションへの参加を行い、全国の方と一緒に歌や体操のレクリエーションへの参加を行っています。

3　地域密着事業所として地域と関係の確立

　　6か月に1度以上開催を義務付けられている『地域運営推進会議』を通じて情報発信することで、地域の関係者（民生委員、町内会長、老人クラブ会長等）との関係を密にし、地域に信頼される事業所を目指します。また去年は愛信園主催のグラウンドゴルフ大会も久しぶりに開催できました。これからも地域事業へ積極的に参加し地域交流の機会を確保したいと思います。

4　サービスの質の向上

　利用者様一人一人の意思や希望を把握し、コミュニケーションをしっかりととる事を心掛け、利用者様の自立心を守り、できない動作をフォローするようにしています。また、利用者様の満足度を高める為にも、希望される外出レクや創作活動を職員で話し合いながら実施しました。

また、職員の介護の質や介護技術向上を目的とした社内や社外研修も、毎月実施できています。

**令和6年度事業報告書**

**栄　養(厨房)　部　門**

令和6年度計画内容

1、入居者様・利用者様の栄養管理

2、食事、食べる事の楽しみの提案と提供

3、知識の獲得と実践

4、施設の設備・物品を大切に使用する

これまで通り入居者様・ご利用者様に合わせた食事が出せるように心がけました。その方に合わせた嗜好・食形態・器具・食事量・病状などを確認し、介護・看護多職種連携のもと、次の食事で必要な変更を出来るようにしました。全てのご希望に添えない事もありますが本人様に合わせたお食事が出せるよう今後も努力致します。

料理の食べやすさに配慮しました。看取りが愛信園でも始まってから通常のお食事が難しい方に向けてゼリー食という食種を作りました。市販品のゼリーですが高栄養かつ味や種類が豊富で本人様やご家族の希望する味の提供を行う事が出来ました。

ご本人様だけではなく入居者様のご家族のご希望もお聞きできるように『栄養計画書』と同封で文書をお出ししました。ほぼ全てのご家族から返信を頂き、ご家族を思う気持ちはもちろん、施設への感謝をお書き頂く方もいらして引き締まる思いでした。ご希望を頂くだけでは未完成です。実行できることは少ないと思いますが少しでもお応えできるように今後も続けていきます。

　「3、知識の獲得と実践」については令和6年度、管理栄養士向けの外部研修がほぼ無かった為参加していませんが令和7年度は関係ある研修があれば積極的に参加したいと思います。

「4施設の設備・物品を大切に使用する」については、価格の高騰により調理器具や修理費等全ての物が値上がりしています。しかし、毎日使う厨房機器や食器等の劣化は避けられません。必要に応じて修理して頂きながら、大切に扱っていくよう昭和イーティングの方々とも共有できていると思います。

令和6年度　居宅介護支援事業報告

令和５年度新規受入れ１６名、死亡４名、同一法人入所1名、他法人入所５名、長期入院加療の為、終結３名、要介護から要支援判定１名

給付管理者数　平均34.5件

予防委託件数　平均4.8件

前年度より顧客管理数104.2％ｕｐ、報酬98.83％

要支援利用者の積極的な受入れで、前年度とほぼ変わらない報酬と顧客管理数が維持できています。

ＳＳでは満床で新規受入れ困難、医療依存度が高く対応困難、夜間トイレ頻回の利用者はマンパワー不足で対応困難との事で、他法人へ今年度は紹介が多くなっています。

今年度は他事業所との連携でご本人様の希望通り自宅での看取りもできました。

ご利用者の意思及び人格を尊重し、ご利用者が可能な限り自宅で自立した生活を営む事ができ、利用者様の意思決定を尊重した支援ができましたと思います。

同一法人への入所はデイサービス、ショートステイ、入所に繋がり、本人、ご家族も慣れた環境で安心して過ごせる場所が提供できました。

今後も迅速柔軟な対応でご利用者や家族に満足して頂ければと思います。

ご利用者の急激な変化に対しては迅速かつ適切な対応で、他事業所との連携もあり、居住環境や生活環境に関して適切なアドバイスや支援をすることにより、信頼関係が強固なものになった。引き続き迅速な対応にて利用者の意向に添えるように支援していきたい。

今年は長期入院加療中の用者様が多い状況です。

在宅復帰予定もある為、状況をみながら新規の受入れを検討していきたいと思っています。